令和元年度第１回八戸市総合教育会議

令和元年 10 月 15 日(火)　午前９時
西白山台小学校

次　　第

１．開　会

２．案　件

〇施設を活用した授業の視察

〇意見交換

① 特別支援教育の現状と今後の展望について
② 新聞活用事業及び読書指導について
③ タブレット機器等を活用した授業について

３．その他

４．閉　会

令和元年度 第１回八戸市総合教育会議出席者名簿

氏　名	職
◎小林（こばやし）　眞（まこと）	市長
伊藤（いとう）　博章（ひろあき）	教育委員会教育長
武輪（たけわ）　節子（せつこ）	教育委員会委員
大庭（おおば）　文武（ふみたけ）	教育委員会委員
簗瀬（やなせ）　眞知雄（まちお）	教育委員会委員
油川（あぶらかわ）　育子（いくこ）	教育委員会委員

◎議長

西白山台小学校	職
原（はら）　寿（ひさし）	校長

事務局	
石亀（いしがめ）　純悦（じゅんいち）	教育委員会　教育部長
橋本（はしもと）　淳一（じゅんいち）	教育委員会　教育部次長兼教育総務課長
小笠原（おがさわら）　徹（とおる）	教育委員会　教育部次長
中村（なかむら）　雅臣（まさおみ）	教育委員会　学校教育課長
西山（にしやま）　康巳（やすみ）	教育委員会　教育指導課長
竹花（たけはな）　和人（かずひと）	教育委員会　総合教育センター所長
大坂（おおさか）　吉弘（よしひろ）	教育委員会　こども支援センター所長

※他に関係ＧＬ等が出席

説　明　資　料
令和元年１０月１５日

学校経営と授業の概要について

八戸市立西白山台小学校
校長　原　　寿

■Ⅰ　経営の基底－信頼と責任－

信頼は、教育活動すべての前提である。教師と子ども、子ども同士、教師相互、教師と保護者の信頼関係を基盤にして、家庭・地域から信頼される学校をめざす。

「よい学校」というのは信頼される教師のいる学校である。恵まれた教育環境を生かしながら魅力ある学校にするためにも、教師への信頼度を高めていくことは本校の必須課題である。教育活動の中核は学級経営を土台にした授業であり、信頼できる教師とは、確かな指導力を発揮し子どもの学びの基礎力を伸ばしていくことができる教師である。

■Ⅱ　経営の方針

■1　めざす学校像　（形成の3年目に）

平成の終わりに誕生した本校が、校歌の一節に謳われる「未来を拓く」「未来に続く」子どもたちを育てる学校として、新たな元号の時代とともに伝統と校風を築き上げていくための土台づくりを進めていく。開校から2年間の成果と課題を生かし、『形成（一つのまとまったものにつくりあげる）の年』としたい。その中で、ともに学ぶことの楽しさや喜びを分かち合いながら自尊感情と自己有用感を高め、子どもたちが将来よりよい人生と社会を築いていけるよう、学齢期における自己実現を図っていく。

そして、子どもにとっては「通いたい学校」、保護者にとっては「通わせたい学校」、地域にとっては「応援したい学校」、教職員にとっては「働きたい学校」をめざす。

■2　めざす子ども像

「夢や志の実現に向かって学び続ける人間性豊かな子ども」

■3　教育目標（長期目標）

『心豊かに　たくましく　ともに学び合う子』
～元気いっぱい　学びわくわく　親切ハートの西白山台っ子～

■4　努力目標（中期目標）

【学】　よく聴き　よく考える子
【心】　きまりを守り　思いやりをもつ子
【体】　進んで　体をきたえる子

■5　学校目標（短期目標）

『 学びの基礎力を育む ～学習のてびきを活用した学習習慣の育成～ 』

〔重点施策〕
（1）「聴く」態度を育て「話す」につなげることにより、学び合いの充実を図る。
（2）「家庭学習のてびき」を活用し学習習慣を身に付ける。（自己マネジメント力を育てる）

■Ⅲ　学校運営に際して（「生かす」を合い言葉に）

■1　情報発信と迅速で誠意ある対応を生かし保護者との信頼関係を構築する
■2　積極的に地域とかかわり地域密着型教育を生かす
■3　特別支援教育の視点と生徒指導の機能を生かす
■4　新学習指導要領の趣旨を生かし完全実施に備える
■5　報告・連絡・相談による情報共有を共通理解と実践に生かす

■Ⅳ　参観していただく授業の内容

小学校の発達段階全体を参観していただくよう、特別支援学級・低学年・中学年・高学年からそれぞれ1つの授業を設定しました。

八戸市教育委員会の教育施策と本校の恵まれた施設・設備を活用した教育活動として、本日は次の4点と中心に参観していただければと思います。

〇特別支援教育の充実
（一人一人の教育的ニーズに応じた適切な支援）
〇メディアセンターを活用した読書指導
〇新聞を活用した授業
〇恵まれたICT環境を活用した授業

■1　特別支援学級の授業（自立活動）

（1）対　象　つばさ学級1組―知的障害（7名）　授業者　北村教諭（学級担任）
　　つばさ学級2組―肢体不自由（2名）　授業者　加藤教諭（学級担任）
（2）内　容　障害の特性に合わせた自立活動
　　〇つばさ学級1組―金種の違いを知って計算したりお金を数えたりする
　　〇つばさ学級2組―ボタン付けや靴紐を結ぶ活動で指先の動きを鍛える
（3）その他　特別支援教育アシスタント及び看護支援員の活用

■2　新聞を活用した授業（社会科）

（1）対　象　5年1組（35名）　授業者　吉田教諭（2年3組担任）
（2）内　容　令和元年9月17日発行の朝日小学生新聞「多発するアマゾンの森林火災」の記事と是川縄文館企画展「山のいとなみ」の内容などから人間と森林の共生について考える
　　※10月11日三八地方森林組合の出前授業で南部赤松の活用について学ぶ予定
（3）その他　専門性を生かした交換授業・地域の木材を使用した校舎への愛着

■3　ICT を活用した授業（国語科）

（1）対　象　4年3組（24名）　授業者　中村教諭（学級担任）
（2）内　容　教材文「アップとルーズで伝える」の内容をラグビーワールドカップの映像の比較からとらえさせる
（3）その他　国語の授業でのタブレットの活用・リテラシー

■4　メディアセンターを活用した読書指導

（1）対　象　1年1組（26名）　授業者　出貝教諭（学級担任）
（2）内　容　動物が出てくる物語の本を探し分類することで、日本や外国の昔話がたくさんあることに気づかせる（読書への意欲付け・本の選び方）
（3）その他　学校司書の活動・図書ボランティアによる環境整備等

■5　その他

（1）　授業の順路は、特別支援学級→新聞活用→ICT活用
　　→メディアセンターの順となります
（2）　メディアセンターでは学校司書等の活動も見ていただければと思います
（3）　順路の中で4つの授業以外の学級の参観もご自由にどうぞ